

「カブトムシの幼虫さがし」

富雄藍咲学園 保育教諭 白石 真季

◎子どもの姿 4歳やまぐみ（男児11名 女児11名 計22名）と育ちの読み取り

- ・当番活動では、恥ずかしがらずに友達の前で挨拶や発表を意欲的に取り組む姿が見られるようになった。運動会を終え、大勢の前で自分の力を発揮できたことで、自信がついた様子が見られるようになった。
- ・運動会と同じ目標に向かった活動を友達と経験したことで、気の合う友達と同じ目的をもって遊ぶ姿が見られるようになってきた。また、「〇〇して遊ぼう」と誘い合ったりするようになった。友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じている子が増えてきた様子が見られる。
- ・「〇〇したい」「(遊びに) 入れて」など自分の思いを保育者や友達に自分なりの言葉で言える子が増えてきている。友達と遊びたい気持ちや相手に自分の思いを聞いてもらいたいと思って関わっているようだ。
- ・制作遊びでは最初は、なんとなく箱をたくさん持ってきて繋げて終わりにしたり、あまり手を加えず完成にさせたりする子が多かった。隣のもりぐみのアイスクリーム屋さんを見に行くようになってからは、それを真似てお店屋さんを作り始めるようになった。そこから自分たちなりにお店屋さんを考え（リボン屋さん・ヤクルト屋さん）遊びに必要なレジやお金、商品を作って遊ぶ姿が見られる。また、車や消防車を作る子たちに実際の乗り物の写真を見せ特徴を確認するとそれに似せて作るようになり、出来上がると周りからも認めてもらい満足げにする姿が見られた。少しずつではあるが、友達や保育者とのかわり方で遊び方が目的をもったりするようになり変化してきている。
- ・積み木遊びでは、その日によって迷路を作ったり、おうちを作ったり、乗り物を作ったり、舞台を作ったりと変わっている。作りたいものを作ろうとする姿が見られる。しかし、友達と一緒に遊ぶなかで、作りたいものがそれぞれ違うこともあり、積み木が足りずしばしば言い合いなどのトラブルになることもある。
- ・サーキット遊びでは、忍者になりきって遊べるように保育者がハチマキを用意したり、「忍法〇〇の術！」と言ったりしながら忍者のイメージが持てるように環境構成した。すると、回数を重ねるうちに自分たちなりにどのように挑戦しようか考えたり、忍者のように振舞ったり、今までできなかったところに挑戦しようとする子がでてきている。
- ・虫やカエルなどを捕まえることを楽しむ子たちは、捕まえた生き物を虫かごにいれその生き物に合った水や草などを探して入れたりする。それを保育室に置き友達と観察する姿が見られる。餌がいることはわかっているが、毎日お世話をするまでにはいわず死なせてしまうこともある。捕る楽しさを感じているようだ。また、保育室内には、前園舎で飼っていたというメダカやザリガニ（終業式前に死んでしまった）もらいものカブトムシなど身近に生き物があり、触ったり、観察したり興味をもっているようだ。

◎目指す子どもの姿

- 生き物に対する愛着をもち、意識するようになる。
- 意欲的に活動に参加しようとする。
- 友達と一緒に目的をもって遊んだり活動したりしようとする。

◎活動の目標（ねらい）

- 室内で飼っているカブトムシの幼虫について興味・関心を持つ。（知識及び技能の基礎）
- カブトムシの幼虫が好きと思う子がいたり、気持ち悪いと思う子がいたり人によって様々であることを知る。（思考力・判断力・表現力等の基礎）
- カブトムシ以外の身近な生き物にも関心を持ち、触れ合おうとする。（学びに向かう力・人間性等）

◎評価規準

知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
<p>○カブトムシの幼虫について興味をもつ。</p> <p>○自分の知っているカブトムシの知識を言う。</p> <p>○見た目の様子を言う。</p>	<p>○カブトムシの幼虫も自分たちのように食べることで生きていることを考えている。</p> <p>○カブトムシの幼虫を好きな子と嫌いな子がいることを知る。</p>	<p>○カブトムシについて関心を持ち、意欲的に観察しようとする。</p> <p>○生き物を大切にしたいという思いをもって生き物と関わろうとする。</p>

◎活動内容のについて

・やまぐみの保育室には、メダカ・カブトムシ・子どもたちの捕った生き物（バッタなど）がいる。男児を中心に生き物や昆虫に興味をもっており、園で捕ったり、自宅から持ってきたりする子もいる。死んでしまうと興味が薄れることから、捕ること、観ることを楽しんでいるようだ。

生き物と一緒に生活していること、その存在を再確認しながら、なにもいないカブトムシの虫かごの中（成虫が死に土に埋めたばかり）をみんなで確認する。幼虫がいることを確認した後、幼虫の育ちを映像で知り、カブトムシについて興味関心を持ち、やまぐみの幼虫が成虫になるために自分たちができることを考えたい。生き物に対しての思いやりや命の大切さを知り、捕まえた生き物をどうするか自分たちで考えられるようになってほしい。

◎教材について

・カブトムシについて

成虫のカブトムシは園の保育者が法人の施設の裏山で捕獲したものをもってきてくださり、各クラスで観察できるように配られたものであった。オスとメスで飼っており、男児を中心に触ったり隣のクラスのカブトムシと戦うところを観察したり、興味をもって接していた。女兒も餌であるゼリーをあげるなど関心を持つ子が多かった。その後、産卵期を終えたオスとメスが死んでしまい、それに気づいた男児がお墓を作るとして畑の方にお花を手向けて埋葬していた。残った土を保育者が確認すると卵が残っていたため、子どもたちにとって身近に感じられる命として取り扱うことにした。

・NHK for school より 幼虫の様子

子どもたちに卵から成虫になる様子を共有するために、絵本ではなく映像でカブトムシの成長を見せることにした。保育室にあるモニターにうつし。短い時間で、幼虫からどのように成虫になるか見ることができる。

◎■環境構成と△援助

■幼虫についてよくわかるような映像を用意する。(NHK for school より 幼虫の様子)

■大きめのブルーシートを用意し幼虫の姿が全員見られるようにする。

■見つけた幼虫は、全員が回して見られるように小さな箱を用意して入れるようにする。

■子どもたちの発言を文字や絵で残しておき後に見返せるようにしておく。

△子どもたちが発言しやすいように、どんな発言でも受け止めるようにし、発言したことを十分に認めるようにする。

△幼虫が弱らないように触りすぎることのないよう伝えておく。

△幼虫の数などを絵にしたりしながらどんな子でもわかるようにしておく。

△子どもたちから幼虫が成虫になるために必要なことがなにか案が出てこない場合には、必要な環境がどんなものか知らせたりしながらできるだけ子どもたちが考えやすいように声掛けをする。

◎ESD との関連

・活動を通して養いたい ESD の視点

多様性：身近にはさまざまな生き物がいることを知る。

いろいろな考えを持つ友だちが周りにいる。

相互性：友達と関わりあいながら活動に参加する。身近にいる生きものと暮らしていることを意識する。

連携性：友達の意見を取り入れながら同じ目的をもって生き物のお世話をしたり、関わったりしようとする。

責任性：自分なりに生き物に対して関心をもち、意欲的に調べたり、観察したり、お世話したりする。

・活動を通して主に育てたい ESD の資質能力

多面的・総合的に考える力

コミュニケーションを行う力

他者と協力する力

進んで参加する態度

・ESD で育てたい価値観

○自然環境、生態系の保全を重要視できる。

○人権・文化を尊重する。

○幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

・貢献できる SDGs

3： 全ての人に健康と福祉を

15： 緑の豊かさを守ろう

17： パートナーシップで目標を達成しよう

◎展開

活動内容	予想される幼児の反応
<p>○担任から、夏から育てていたカブトムシの虫かごが今どうなっているのか聞く。</p> <p>○死んでしまったカブトムシがどうなったかお墓に埋葬している様子の写真を見る。</p> <p>○虫かごの中には何もいないのか考える。</p> <p>○卵からどのように成虫のカブトムシになるのか考えた後、映像「NHK for school より 幼虫の様子」を視聴する。</p> <p>○実際に、クラスの虫かごの土の中に幼虫がいるか確認する。</p> <p>○映像の説明を思い出しながら自分たちがカブトムシの幼虫にしてあげられることを考える。</p>	<p>・虫かごを見て「なにもいない」、「死んだ」などの声があがる。</p> <p>・「カブトムシの成虫が死んだからなにもいない」「オスとメスがいたから卵があるかもしれない」「まだ土の中にカブトムシ(成虫)がかくれている」と思ったことをロ々に言う。</p> <p>・「知らない」「さなぎになる」と声を上げる。</p> <p>・幼虫から成虫になる過程や、幼虫の食べ物を知る。</p> <p>・「ごはんになる葉っぱや土を持ってくる」「成虫になるまで育てる」「水</p>

○日々の中で子どもたちと世話をしていくことを共有する。

をあげる」など自分にできることを考え口々に言う。

- ・カブトムシが大きくなることへ期待を持つ。

◎実際の子どもの姿

クラスでの話し合い

夏から育てていたカブトムシの虫かごに、変化があるか問いかけ、虫かごをもってきて「カブトムシがない」ことについてみんなで確認した。「逃げた」や「土の中にいる」など想像をふくらます子どもいたが、子どもから「死んでしまって、埋めた」という声が上がリ、なんで死んでしまったのだろうかと問いかけつつ、「死んでしまって埋めた」という子どもたちと写真を全体に見せながら当時の様子を聞く。

埋葬した時の写真を見る



埋葬した時にいた子どもたちに、その時の様子（「カブトムシの成虫を埋めると会えなくなるから悲しかった」「さみしい気持ち」「天国に行ってほしい」「お花を添えた」など）やカブトムシに対する気持ち（「もっと一緒に遊びたかった」「次に命が繋がっているから寂しくない」など）を聞きとりながら全員に分かりやすい言葉に変えて伝えた。他児にも写真を見て思ったことがある子に話を聞き、全員で共有すると、「さみしいきもち」「お墓を作ってもらってよかった」など声が上がった。カブトムシへの思いをそれぞれ考えている様子がうかがえた。

映像を見る



NHK for school の【幼虫の様子】を視聴し、カブトムシの成長についての興味関心を広げ、カブトムシの変態の様子や体を大きくするために幼虫は何を食べているのかなど、みんなで同じイメージを持てるようにした。

幼虫から成虫になるまでの過程を真剣に視聴した子どもたちは、もっとカブトムシについて知りたいと言い、興味関心を持っている様子であった。

さらに、自分のクラスにも幼虫がいるのではと期待を持つようになる。

カブトムシの幼虫さがし

クラスの虫かごにも幼虫がいるかもしれないと期待を持った子どもたちと、大きなブルーシートを広げ虫かごをひっくり返し土の中をかき分けて幼虫を探した。幼虫を触るのが苦手な子や見守りだけの子、見つけ出したいくてそいで土をかき分ける子などそれぞれの参加の仕方でも幼虫が出てくる様子を見ていた。「幼虫いた」とかき分けていた子が、幼虫を見つけ全部で7匹の幼虫を見つけ感嘆の声を上げながら嬉しそうな様子がうかがえた。

おそろおそろ触ったり、そっとつついてみたり、「ぷにぷにしてる」「動いた」と言ったりしながら興味をもってカブトムシの幼虫に関わろうとしていた。

画用紙に7匹の幼虫の絵を描き全員が理解できるようにした。たくさんいることにも喜んでる様子だった。

じぶんたちができることを考える

自分のクラスの幼虫を目の前にし、この幼虫をみんなはどうしたいかを問うと「カブトムシの成虫になるように育てたい」という意見だけが出てきた。戸外ではない虫かごの中で大きくなるために必要なものを子どもたちに映像を見たことにも触れつつ話し合った。幼虫が大きくなるためには食べものが必要であることに気づいた子どもたちは、腐った土にするために葉っぱをもって来ることや水をあげることなど口々に声を上げていた。

虫かごのふたを常に開けておき、拾った葉を入れられるようにしたり、霧吹きで水をあげられるようにしておいたりして子どもたちがいつでもお世話できるように環境構成しておいた

日々の様子



子どもたちは、「大きくなるかな」「お水あげないと」と虫かごの底をのぞいたりしながら、土に潜って普段はみられない幼虫の成長を期待しながら世話をするようになる。日々の当番活動にもその役割を入れ込むと話し合ったため多くの子に関心を持って自分なりに関わっている様子が見られる。

また、土替えの様子を子どもたちと一緒にしたりしながら幼虫の様子を定期的に確認することで大きくなっていることを感じて喜んでいる姿も見られる。

◎今後の課題

- ・カブトムシだけではなくほかの生き物でも命を守ったり、命をつないだりすることについてや自分たちができることを考えて実際に触れ合う経験をもつこと。
- ・クラスのカブトムシのさなぎの様子をどのように子どもたちに伝えるか。
- ・カブトムシは夏に成虫になるため、進級の際にどのように担任に受け継ぐか。

たくましい子ども

考えてやりぬこうとする子ども

育ち合う子ども

カブトムシの幼虫探し(10月22日)

ESDで重視する能力・態度が揺さぶられる子どもの姿(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿)

○批判的に考える力

・カブトムシや生き物にとって過ごしやすい環境にするためにどうすればよいか自分なりに考えを巡らせ、自分の思いを伝えようとする。
(思考力の芽生え、言葉による伝え合い)

○多面的・総合的に考える力

・死んでしまう命があることと命を受け継いで生まれる命があることに気づく。
(思考力の芽生え)
・カブトムシへの思いは友達によってさまざまであることを知る。
(道徳性・規範意識の芽生え、思考力の芽生え)

○コミュニケーションを行う力

・身近な生き物やカブトムシについて知っていることをそれぞれの経験をもとに話したり、友達の話を聞き、思いや考えに触れたりする。
(言葉による伝え合い、協同性)

○他者と協力する態度

・クラスの友達のカブトムシへの思いを知り、同じ思いの友達とお世話をしようとする。
(協同性、社会生活との関わり)

○つながりを尊重する態度

・クラスにいる生き物に興味をもち、親しみ愛着をもつ。
(自立心、自然との関わり・生命尊重)
・飼うと決めた生き物たちのすみかや食べ物に関心を持つ。
(自然との関わり・生命尊重、思考力の芽生え)

○遠んで参加する態度

・カブトムシ以外の生き物に関心を持つ。
(自立心、豊かな感性と表現)



ねらい(9月下旬~10月上旬)

- 遊びや活動に意欲的に取り組もうとする。
- 感じたことや思ったことなどを様々な方法で表現する。
- 友達に自分の思いを話しながら、遊ぼうとする。



友達と一緒に同じイメージをもって作りたいものを作ったり、遊んだりするようになってきている。

気の合う友達を中心にクラスの友達と関わろうとする力

友達と自分の思いや考えの違いを感じたり共感したりする力

遊びの後の振り返りや帰りの会のお当番のニュースの時間に、「○○して楽しかった」「○○と一緒に遊ぶのが楽しかった」「明日もしたい」など、自分なりの言葉で友達の前に立って言葉で伝えられるようになってきている。

クラスの友達の思いや考えを聞こうとする力

運動会(10月上旬)

学年みんなで、音楽に合わせて体を動かすことを楽しむ。

自分の力で走りきることや、友達と協力して競技をやりきることに意欲的に取り組む。



わかりやすい目的や目標に向かう力

クラスのいろいろな友達の存在に気づき、自分がクラスの一員であることを認識し行動しようとする力

できた喜びを自信に繋げる力

友達と一緒に遊んだり、過ごしたりすることが好きになり、うれしく思うこと

慣れた習慣やわかりやすい予定の見通しをもち、自分で行動する力

思いを継続・持続させようとする力